

地域で異なる実情 その背景にあるもの



特集
家に灯りを、まちに活気を

一戸建て住宅が多い黒磯、
店舗・事務所の割合が高い西那須野、
旅館やホテルが多い塩原。

まちの成り立ちが違うため、抱える事情もさまざま。
各地区で起こっている問題や背景を探ります。



駅西商店会長(西那須野)

菊池 一夫 氏

商店街に活気を戻す ターゲットは若い世代

駅西商店会は、もともと駅前通りと桜通りに囲まれた比較的狭いエリアの商店会でした。しかし、高齢化などに伴い店舗の減少が予想されたため、現在は広範な地域からメンバーを募って活動しています。私も途中から加わった1人です。駅前という立地の難点は、駐車場の確保が難しいこと。車社会なので、駐車場が無ければ商売は難しいのが現状です。空き店舗を活用して出店しようとしても、駐車場の確保が最終的に問題になることもあるでしょう。また、便利で安い大型店に負けないよう、お店の魅力を高める多くの努力が必要です。

商店街にお客さんを呼び、 取り戻したいまちの活気

ありがたいことに、この地域へ新たにお店を出してくれる人がいるため、空き店舗や空きテナントは点在しているものの、多くはないという印象です。空き店舗対策というわけはありませんが、商店会では、この地域に人を呼び込むためのイベントを毎年開催しています。お客さんが多く訪れる地域であれば、出店希望者も増え、空き店舗が生まれにくくなると思うので。現在は、これまで商店街に馴染みがなかったような若い世代に来てもらえるよう、イベントの内容も工夫しました。

商店会も世代交代

この商店会が世代交代したのは8年前。それまで父親の世代が商店会を引っ張って来ていましたが、私たちの世代にバトンが渡されました。毎年8月のイベントは、まず自分たちが楽しいものにしなから、お客さんも楽しんでもらえるように心掛けています。イベントをきっかけに商店街を知ってもらい、それぞれのお店に足を運んでもらえたら最高です。



弥生町自治会長 福田 廣志 氏

「空き家」と「危険」、隣り合わせ

弥生町は黒磯市街地に位置する170戸ほどの自治会。子どもの頃から60年以上にわたってこの地域を見てきましたが、近年、家屋数の減少に反して、空き家の数は増えています。敷地から木の枝や雑草が張り出して通行の妨げになったり、不審者の出入りが目撃されたりと、住民の方々から不安の声をいただくこともあり。空き家の庭で物が燃えたボヤ騒ぎもありました。こうしたことは、住民の安全に大きく関わる問題なので、地区全体で「気を付けていこう」ということになりました。しかし、いくら空き家でも勝手に個人の所有地に

危険な空き家は増えるばかり 地域での対策を模索しています

横のつながりを強化し、守る。空き家問題を深刻化させていると感じるのが高齢化だと思えます。子ども世代が外に転出してしまい、地区に残るのは高齢の親世代ばかり。その親世代もいなくなれば、家は空き家になるでしょう。他にも、横のつながりが昔に比べると薄くなってきているので、「気づいたら隣が空き家になっていった」「自宅の隣にどんな人が住んでいるか知らない」など、自治会の運営面でも頭を悩ませる原因になります。だからこそ弥生町では「地区の安全は自分たちで守ろう」と、2年前に見守り隊を結成しました。歩いて周囲を見回ると、「配慮が必要な人が越してきた」「危険箇所がある」など、地区で共有すべき情報の発見につながります。家庭の事情などで空き家になるのは仕方ありませんが、地域でできる対策がないか模索しています。

未だに残るバブル崩壊の爪痕

現在、旅館組合に加盟している旅館やホテルの数は52件。20〜30年前の最盛期の頃には100件弱ありましたので、半減したことになります。当時は浴衣姿の宿泊客が通りを行き交い、飲み屋やおみやげ屋は人で溢れ、まちは活気に満ちていました。そんな観光地もバブル崩壊とともに、お客様が減少。これに拍車をかけたのが旅行形態の変化です。主流の団体旅行から個人旅行へと変わったことで、観光客数の減少はさらに進み、廃業する旅館もだんだんと増えてきました。ここ5年間で7件ほどが廃業しているんです。

バブル崩壊後に変わったまち その再生に取り組んでいます

この中には経営者が変わって再度旅館としてオープンしたものもありませんが、空いたままの状態になっているものが大半。特に塩原温泉の玄関口であるJRバスターミナル前は空き家が並んでおり、お客様に寂しい印象を与えてしまっています。駅前の整備だけでも、何とかできないかと考えています。

**再生をかけて取り組む
春と冬の誘客**

夏は避暑地として、秋は紅葉の名所として、観光客が訪れてくれますが、冬は寒く、雪が降るため客足が伸びません。そこで、まちの有志が集まって手作りの「竹灯籠」を温泉街に飾り付け、「塩原温泉竹取物語」と銘打ったイベントを始めました。幻想的で本当にきれいですよ。

春の話題作りのために、白や赤、ピンクの綺麗な花をつけるハナモモの植栽も行っています。目標は3千本。少し先の話ですが、そのハナモモが満開になった時、温泉街ににぎわいが戻れば幸いです。



塩原温泉旅館協同組合理事長
君島 則夫 氏

※弥生町は、居住困難な廃屋の数が市内で最も多かった(平成26年那須塩原市DID地区空家実態調査)